

ダクト用・配管用温度調節器

形 TY6800Z、形 TTY6800Z

■ 概要

ダクト用・配管用温度調節器（形番 TY6800Z、形番 TTY6800Z）は、ダクト内の空気と、配管やタンク内の液体などの温度制御（二位置式）に使用できます。

■ 特長

- 電気式 2 位置制御
液体封入の感温部により、温度変化を検出します。形番 TY6800Z はマイクロスイッチ 1 個、形番 TTY6800Z は、マイクロスイッチ 2 個を内蔵し、温度制御に使用できます。
- 簡単な温度設定と動作すき間調節方法
温度設定は、前面の設定ノブより行えます。形番 TY6800Z は、動作すき間調節機構があり、これにより装置に適した運転ができます。形番 TTY6800Z は、各スイッチの動作すき間が固定です。スイッチ間の段間すき間は、調節機構により簡単に調節でき、装置に適したシーケンス制御ができます。



■ 形番

形番	温度設定範囲 (°C)	感温部最高許容温度 (°C)	感温部最低許容温度 (°C)	導管 (キャピラリ) 長さ (m)
TY6800Z6000	- 15~70	100	- 40	1.5
TY6800Z6010	- 15~70	100	- 40	5
TY6800Z7000	5~90	100	- 40	1.5
TY6800Z7010	5~90	100	- 40	5
TY6800Z8000	40~125	150	- 40	1.5
TY6800Z8010	40~125	150	- 40	5
TTY6800Z6000	- 15~70	100	- 40	1.5
TTY6800Z6010	- 15~70	100	- 40	5
TTY6800Z7000	5~90	100	- 40	1.5

* 導管の実際の長さは1.5mタイプで1.35~1.6m、5mタイプで4.75~5mと幅があります。最短長を考慮して手配してください。

● 別途手配品

名称	形番	備考	参照先
保護管	112624AA-J	R1/2 SUS304	本説明書『図 2』 『AI-4074 保護管 仕様・取扱説明書』
プレッシャ・フィッティング	83165370-001	1/2NPT	本説明書『図 3』
感温部支持具	DY3002A1011	工事部材	本説明書『図 4』 『AI-4009 感温部支持具 仕様・取扱説明書』

安全上の注意

ご使用前に本説明書をよくお読みのうえ、仕様範囲内で使用目的を守って、正しくお使いください。
お読みになったあとは、本説明書をいつでも見られる所に必ず保管し、必要に応じ再読してください。

使用上の制限、お願い

本製品は、一般機器での使用を前提に、開発・設計・製造されています。

本製品の働きが直接人命にかかわる用途および、原子力用途における放射線管理区域内では、使用しないでください。一般空調制御用として本製品を放射線管理区域で使用する場合は、弊社担当者にお問い合わせください。

特に ● 人体保護を目的とした安全装置 ● 輸送機器の直接制御（走行停止など）● 航空機 ● 宇宙機器 など、安全性が必要とされる用途に使用する場合は、フェールセーフ設計、冗長設計および定期点検の実施など、システム・機器全体の安全に配慮した上で、ご使用ください。

システム設計・アプリケーション設計・使用方法・用途などについては、弊社担当者にお問い合わせください。

なお、お客様が運用された結果につきましては、責任を負いかねる場合がございますので、ご了承ください。

■ 設計推奨使用期間について

本製品については、設計推奨使用期間を超えない範囲でのご使用をお勧めします。

設計推奨使用期間とは、設計上お客様が安心して製品をご使用いただける期間を示すものです。この期間を超えると、部品類の経年劣化などから製品故障の発生率が高まることが予想されます。設計推奨使用期間は、弊社にて、使用環境・使用条件・使用頻度について標準的な数値などを基礎に、加速試験、耐久試験などの科学的見地から行われる試験を行って算定された数値に基き、経年劣化による機能上支障が生ずるおそれが著しく少ないことを確認した時期までの期間です。

本製品の設計推奨使用期間は、11年です。

なお、設計推奨使用期間は、寿命部品の交換など、定められた保守が適切に行われていることを前提としています。

製品の保守に関しては、保守の項を参照してください。

● システム接続時の注意

- 本製品は、故障時に異常状態を回避する機能や他の機器に報知する機能を有していません。本製品とは独立した安全対策を行ってください。
- 封入液の漏れや接点の溶着などの場合は、出力がONで固定する場合があります。温水ヒータなどの加熱装置を制御する場合は、空だき防止などの安全対策を行ってください。

● 本製品設置場所の禁止事項

本製品は、次のような環境に設置しないでください。正しく動作しない、または短時間で故障するおそれがあります。

- 特殊薬品や腐食性ガスのあるところ（アンモニア、硫黄、塩素、エチレン化合物、酸、その他）
- 水滴や過度の湿気があるところ
- 本体が結露するところ
- 直射日光、その他高温にさらされる場所
- 振動・衝撃のあるところ（例えば、空調機やダクトなどへの直接取付）
- 本体内へのちり・ほこりの侵入が懸念される場所

● 本製品設置場所の注意事項

- 感温部は、被制御体の平均温度を検知できる場所に付けてください。
- 感温部は、次のような場所へ設置しないでください。正しい温度を検知できないおそれがあります。
 - 温風、冷風が直接当たりそうなところ
 - 空気だまり、すき間風がありそうなところ
 - 水位の変化が大きいところ
 - 感温部を固定できないところ
 - 管理者以外の方が容易に触れられるところ
- 本体周辺にメンテナンススペースを設けてください。

■ 「警告」と「注意」



警告

取り扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う危険の状態が生じることが想定される場合。



注意

取り扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うか、または物的損害のみが発生する危険の状態が生じることが想定される場合。

■ 絵表示



記号は、危険の発生を回避するために特定の行為を禁止する場合に表示（左図は分解禁止の例）。



記号は、危険の発生を回避するために特定の行為を義務付けする場合に表示（左図は一般指示の例）。

⚠ 警告



結線・設定・保守作業は、給電元の電源を切った状態で行ってください。感電や故障のおそれがあります。



本製品は、D種接地以上に接地してください。不完全な接地をすると、感電や故障のおそれがあります。



結線・設定・保守作業後は、カバーを元に戻してください。カバーをしないと、感電のおそれがあります。



本製品をヒーター等火災の原因につながる機器の制御に使用する場合は、安全対策を行ってください。



シールコネクタやコンジットなどを使用できない場合は、グロメットを装着してください。端子への不用意な接触により、感電するおそれがあります。

⚠ 注意



本製品は、本説明書に記載された仕様範囲内で取り付け・結線し、運用してください。火災や故障のおそれがあります。



取り付けや結線は、計装工事、電気工事などの専門の技術を有する人が行ってください。施工を誤ると、火災や感電のおそれがあります。



配線については、電気設備技術基準、内線規程などに従って施工してください。施工を誤ると、火災のおそれがあります。



端子台に接続する場合は、絶縁被覆付き圧着端子を使用してください。絶縁被覆がないと、短絡して火災や故障のおそれがあります。



端子ねじは、規定のトルクで締めてください。締め付けが不完全だと、火災や発熱のおそれがあります。



本製品を分解しないでください。感電したり、故障するおそれがあります。

- 重要!! ●本製品を正しく使用するために、本説明書および組み合わせた機器や装置などの説明書に従ってください。
- 本説明書に定められた定格の範囲でご使用ください。接点が溶着し出力が切り替わらない場合があります。

■ 外形寸法

● 温度調節器

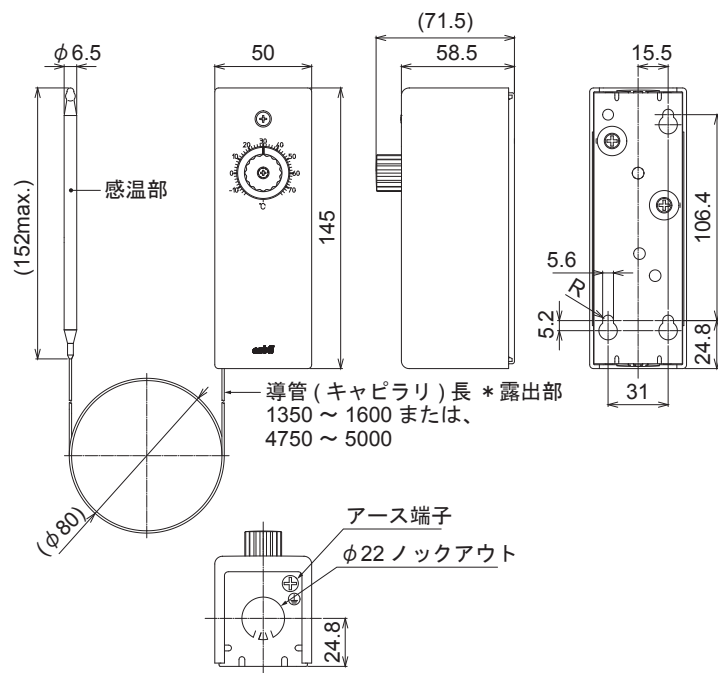


図 1 形番 TY6800Z、形番 TTY6800Z 外形寸法図 (mm)

● 補助機器

《保護管》

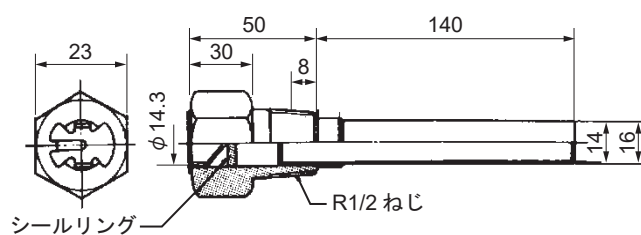


図2 形番 112624AA-J 外形寸法図 (mm)

《プレッシャフィッティング》

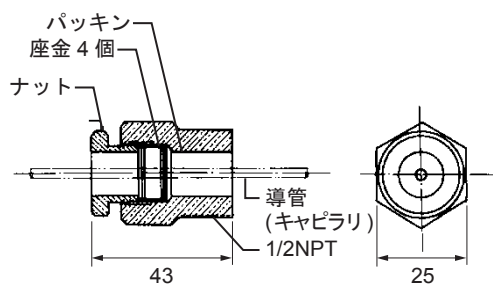


図3 形番 83165370-001 外形寸法図 (mm)

《感温部支持具》

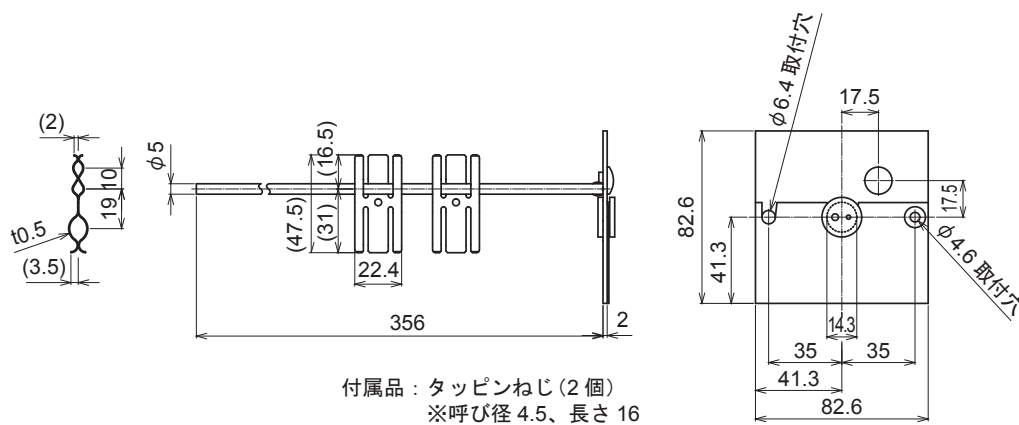


図4 形番 DY3002A1011 外形寸法図 (mm)

■ 仕 様

項 目		仕 様		
動作すき間	形番 TY6800Z	二位置式一段	約 3 ~ 11℃可変	
	形番 TTY6800Z	二位置式二段	各スイッチの動作すき間：約 3℃固定 スイッチ間の段間すき間：約 2.5 ~ 8℃可変	
スイッチ動作		『図 13』『図 16』『■動作』参照		
スイッチ動作	形番 TY6800Z	温度上昇により、端子 R-W 間「閉」、端子 R-B 間「開」		
		温度下降により、端子 R-W 間「開」、端子 R-B 間「閉」		
	形番 TTY6800Z	温度上昇により、No.1 スイッチ端子 R-W 間「閉」、端子 R-B 間「開」 さらに上昇すると、No.2 スイッチ端子 R-W 間「閉」、端子 R-B 間「開」		
		温度下降により、No.2 スイッチ端子 R-W 間「開」、端子 R-B 間「閉」 さらに下降すると、No.1 スイッチ端子 R-W 間「開」、端子 R-B 間「閉」		
スイッチ接点定格		モータ負荷	AC120V	AC240V
		常用	8A	5.1A
		起動	48A	30.6A
環境条件		本体部取付周囲条件		輸送・保管条件
		周囲温度	0 ~ 50℃*	- 20 ~ 60℃
		周囲湿度	90%RH 以下 (結露なきこと)	95%RH 以下 (結露なきこと)
感温部	寸法	φ 6.5 × 152mm 以下		
	材質	銅		
	最高許容圧力	0.35MPa		
導管 (キャピラリ)	長さ	約 1.5m (1.35 ~ 1.6m) 約 5m (4.75 ~ 5m) (注記)形番 TTY6800Z7000 (温度設定範囲：5~90℃) は長さ 1.5m のみ		
	材質	銅		
取付		ケース背面の取付穴を使用して取り付ける。『図 7・8』参照		
配線接続		マイクロスイッチのねじ端子 (M4) に接続 締め付けトルク 1.1N・m		
質量	形番 TY6800Z	0.45kg		
	形番 TTY6800Z	0.5kg		
主要部材質	カバー	ポリカーボネート樹脂 (色：ナチュラルグレー DIC G-261 (1版))		
	ケース	冷間圧延鋼板 t1.2、亜鉛メッキ処理		
付属部品		付属部品セット：本体取付用 M4 ねじ (長さ 12mm)、六角ナット 3セット グロメット (ナイロン樹脂、黒) 1個 防振ゴムセット：スペーサ、ワッシャ、防振ゴム 3セット		
補助機器 (別途手配)	保護管	形番 112624AA-J R1/2 ねじ SUS304 * 『図 2、説明書 AI-4074』参照		
	プレッシャフィッティング	形番 83165370-001 1/2NPT ねじ 黄銅 * 『図 3』参照		
	感温部支持具	形番 DY3002A1011 工事部材 * 『図 4、説明書 AI-4009』参照		

* 動作点は本体周囲温度の変動によりT℃変動します。
 キャピラリ長さ1.5mの場合 $T[℃]=±0.15×(本体周囲温度-動作点確認時の本体周囲温度)$
 キャピラリ長さ5mの場合 $T[℃]=±0.25×(本体周囲温度-動作点確認時の本体周囲温度)$

■ 取 付

⚠ 注 意



本製品は、本説明書に記載された仕様範囲内で取り付けし、運用してください。火災や故障のおそれがあります。



取り付けは、計装工事、電気工事などの専門の技術を有する人が行ってください。施工を誤ると、火災や感電のおそれがあります。

『図 7、図 8、図 9』を参照し、正しく取り付けてください。

- 感温部を本体よりも高い場所に設置する場合は、導管（キャピラリ）に本体より低い位置になる部分を設けてください。結露による水などが導管を伝って本体に入り込み、ショート、火災や故障の原因となるおそれがあります。
- 屋外に取り付ける場合は、プラボックスなどを使用して設置してください。

* 本製品は防雨カバー（形番Q615）への搭載はできません。

● 本製品設置場所の禁止事項

本製品は、次のような環境に設置しないでください。正しく動作しない、または短期間で故障するおそれがあります。

- 特殊薬品や腐食性ガスのあるところ（アンモニア、硫黄、塩素、エチレン化合物、酸、その他）
- 水滴や過度の湿気があるところ
- 本体が結露するところ
- 直射日光、その他高温にさらされる場所
- 振動・衝撃のあるところ（例えば、空調機やダクトなどへの直接取付）
- 本体内へのちり・ほこりの侵入が懸念される場所

● 本製品設置場所の注意事項

- 感温部は、被制御体の平均温度を検知できるところに取り付けてください。
- 感温部は、次のような場所へ設置しないでください。正しい温度を検知できないおそれがあります。
 - 温風、冷風が直接当たりそうなおそれがあるところ
 - 空気だまり、すき間風がありそうなおそれがあるところ
 - 水位の変化が大きいところ
 - 感温部を固定できないところ
 - 管理者以外の方が容易に触れられるところ
- 本体周辺にメンテナンススペースを設けてください。

● 取付手順

- 重要!!**
- 導管（キャピラリ）をよじったり、鋭く曲げないように注意してください。
 - 本体カバー、端子カバーは取り外したままにしないでください。

温度調節器は、本体背面の取付穴（3か所）を使用し、付属の M4 ねじを用いて、壁やパネルなどに取り付けます。

本体の取り付け作業は、本体カバーや端子カバーを取り外して行います。

既設で空調機やダクトに直接取り付けられている温度調節器と交換する場合は、図 8 のように防振ゴムセットを取り付けて使用してください。

(1) 防振ゴムの穴部にスペーサを入れます。

（参照）『図 8 ①』

(2) 防振ゴムの溝部で本体鉄板を挟みこみ、取付ねじを締めます。（参照）『図 8 ②』

(3) ゴムが本体鉄板をしっかりと挟んでいることを確認します。

（注記）防振ゴムは、ダルマ形状の穴の小径側には、完全に入らない大きさになっています。

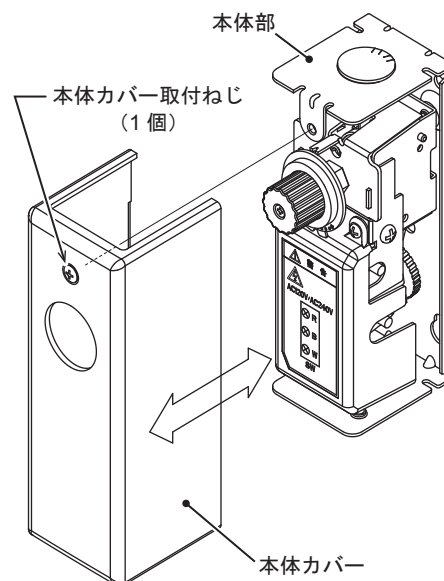


図 5 本体カバーの着脱

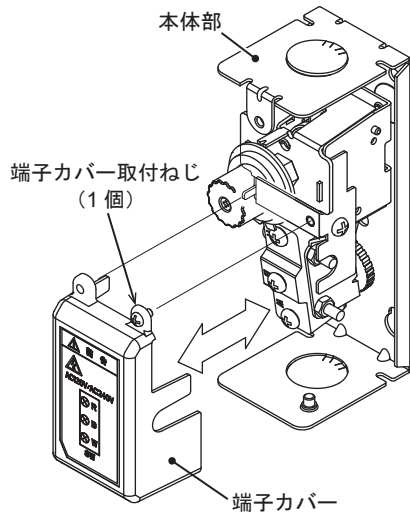


図6 端子カバーの着脱

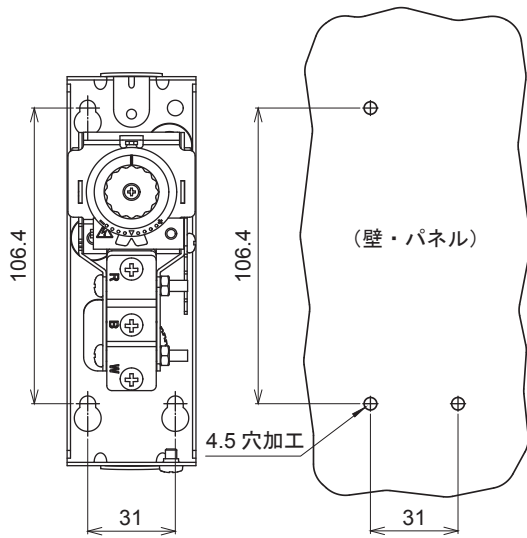


図7 壁板取付寸法 (mm)

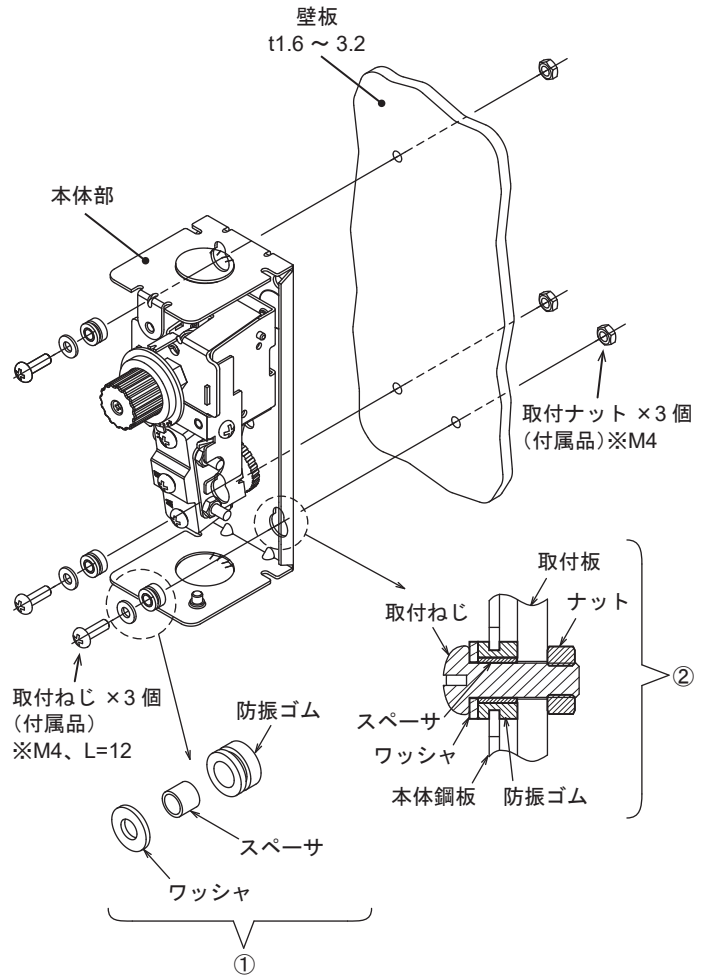
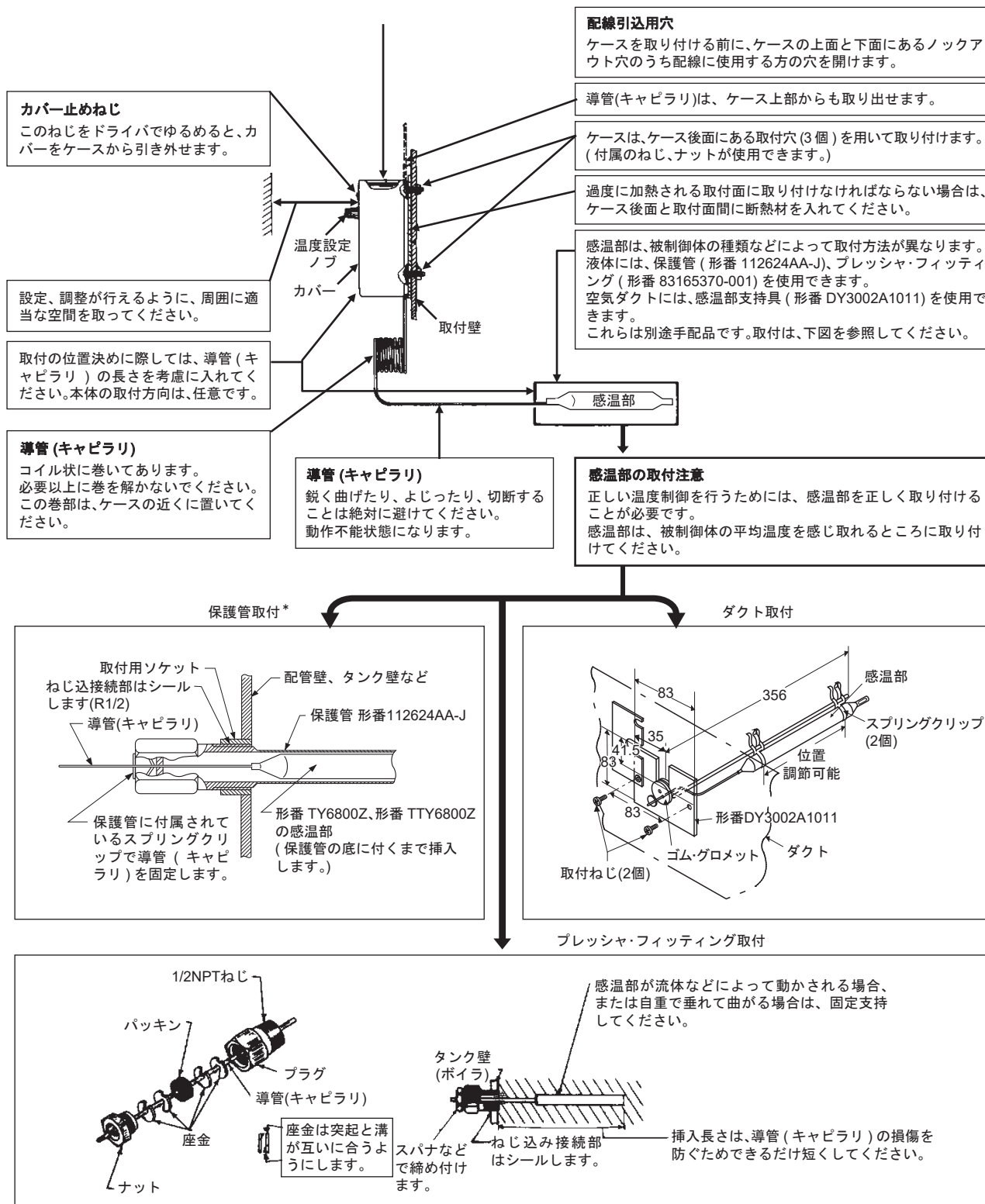






図8 取付手順






* 保護管取付の場合は、シリコングリス(形番83165527-001)を保護管内に充てんすることにより、感温部の応答性能を良くできます。(例: ステンレス鋼製の保護管の場合、約15%良くなります)。

図9 取付

■ 結 線

⚠ 警 告	
	結線は、給電元の電源を切った状態で行ってください。 感電や故障のおそれがあります。
	本製品は、D種接地以上に接地してください。 不完全な接地をすると、感電や故障のおそれがあります。
	本製品をヒーター等火災の原因につながる機器の制御に使用する場合は、安全対策を行ってください。
	シールコネクタやコンジットなどを使用できない場合は、グロメットを装着してください。 端子への不用意な接触により、感電するおそれがあります。

⚠ 注 意	
	本製品は、本説明書に記載された仕様範囲内で結線し、運用してください。 火災や故障のおそれがあります。
	結線は、計装工事、電気工事などの専門の技術を有する人が行ってください。 施工を誤ると、火災や感電のおそれがあります。
	配線については、電気設備技術基準、内線規程などに従って施工してください。 施工を誤ると、火災のおそれがあります。

- 重要 !!**
- 本製品を正しく使用するために、本説明書および組み合わせた機器や装置などの説明書に従ってください。
 - 電源の接続は、最後に行ってください。
誤って端子に触ると、事故や破損の原因となります。
 - 端子に接続する負荷は、仕様を示す接点定格を超えないようにしてください。
 - 付加機能として、必要によって使用するタイマや補助リレーなどは、信頼性のあるものを選択のうえ、正しい回路を構成してください。
 - 制御する機器に表示されているのと同一の電圧、周波数の電源を供給してください。
 - 結線後は、正しく配線されていることを確認してください。
誤った配線は、機器の破損や誤動作の原因になります。
 - 入出線用ロックアウトを使用する場合は、破断部に突起やバリを残さないように除去してください。
配線を傷つけたり、けがをするおそれがあります。

● グロメット（付属部品）の使用、取り付けについて

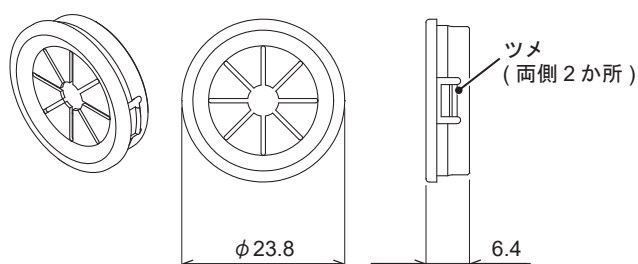


図 10 グロメット形状・寸法 (mm)

付属のグロメットは、『図 11』に示す本体下側のロックアウト穴を使用し、かつ、シールコネクタを使用できない場合に、開けたロックアウト穴に取り付けて使用してください。

指などが入らないようにし、端子への不用意な接触による感電を防ぎます。

* 配線・結線作業前に取り付けを完了してください。

- (1) グロメットを対象のロックアウト穴へ『図 12』で示す向きで差し込みます。
- (2) 「カチッ」とツメがはまる音がするまで押し込みます。
- (3) 外れないことを確認します。

* グロメットの穴を使用し、本説明書の指示に従って配線・結線をしてください。

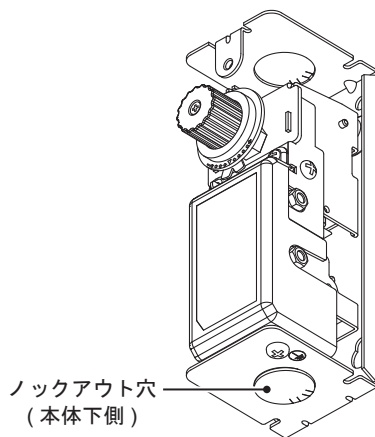


図 11 グロメットを取り付けるロックアウト穴

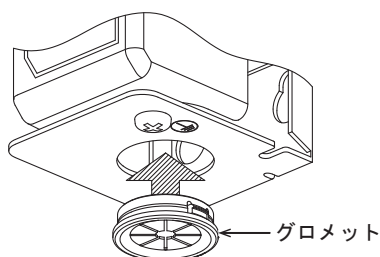


図 12 グロメットの取り付け

● 結線方法

⚠ 注意



端子台に接続する場合は、絶縁被覆付き圧着端子を使用してください。絶縁被覆がないと、短絡して火災や故障のおそれがあります。



端子ねじは、規定のトルクで締めてください。締め付けが不完全だと、火災や発熱のおそれがあります。

配線にはケーブルグランドの使用を推奨します。ケーブルグランドを使用しない場合は、配線の引張力が直接本体に伝わらないように、本体外側（本体付近）で配線を固定してください。

- (1) 入出線出口の方向にあわせて穴あけ個所を決め、ロックアウト穴を開けます。

- (2) 破断部の突起やバリを除去します。

(注記) 配線用のロックアウト穴が、本体上部と下部に1個ずつ設けられています。

- (3) 使用する電線を確認します。

- 絶縁性が良いこと
- 適切な電流容量であること

- (4) ロックアウト穴を用いて配線をケース内部に引き込み、マイクロスイッチの上部にある所定のねじ端子（R、B、W 符号付）に丸形端子（M4 サイズ）を使用して結線します。

- (5) 本体を接地します。

- (6) 装置や電源を接続します。

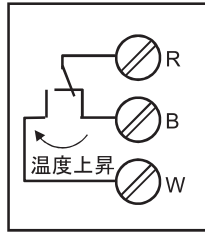
- (7) 正しく配線されていることを確認します。

⚠ 警告



結線作業後、カバーを元に戻してください。カバーをしないと、感電のおそれがあります。

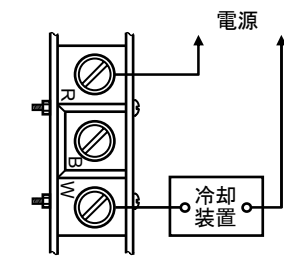
● 形番TY6800Z



温度上昇により、端子R-W間：閉
端子R-B間：開

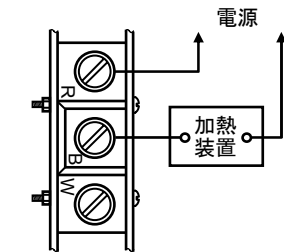
*  は、ねじ端子を表します。

図 13 スイッチ構成



形番TY6800Z端子

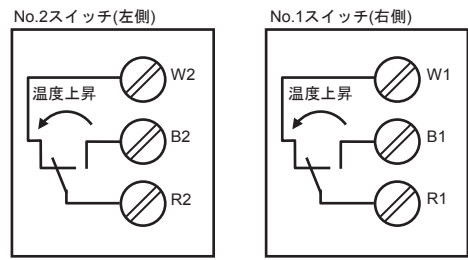
図 14 冷却制御結線例



形番TY6800Z端子

図 15 加熱制御結線例

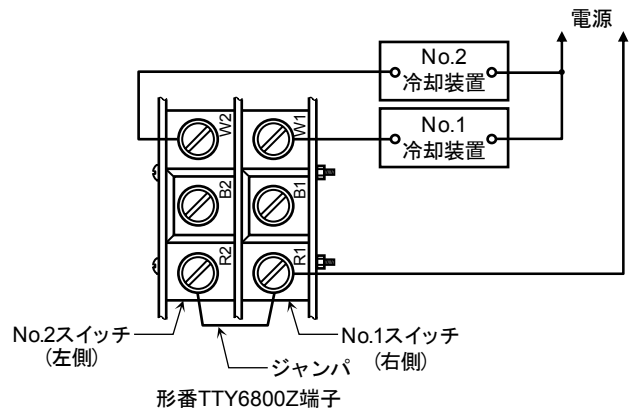
● 形番TTY6800Z



温度上昇により、No.1スイッチ（右側）、No.2スイッチ（左側）の順で動作します。

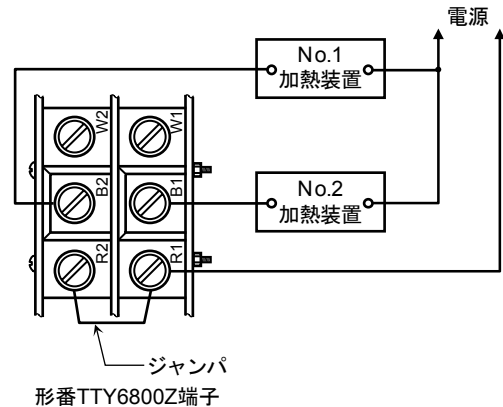
*  は、ねじ端子を表します。

図 16 スイッチ構成



形番TTY6800Z端子

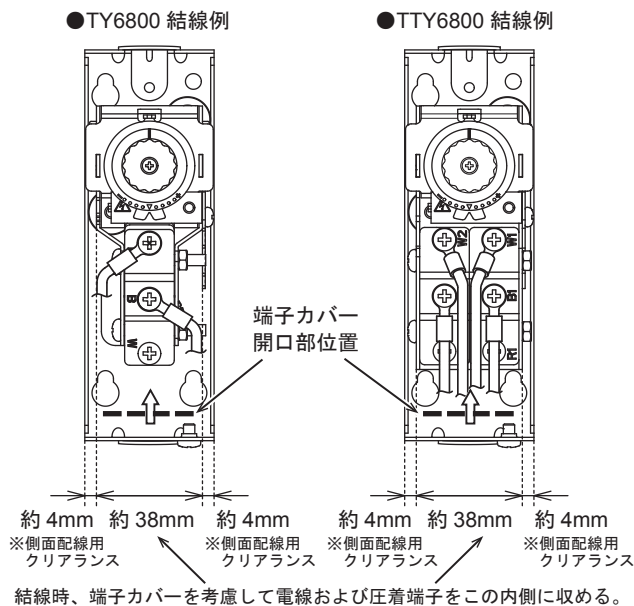
図 17 冷却2段階制御結線例



形番TTY6800Z端子

図 18 加熱2段階制御結線例

- マイクロスイッチのねじ端子への接続は、電線を本体下側からマイクロスイッチ方向へ配線します。
- ねじ端子への接続は、『図 19』に示すとおり向きで丸形端子（M4 サイズ）を使用して結線します。
（注記）圧着端子、または電線が干渉して端子カバーが装着できなくなります。

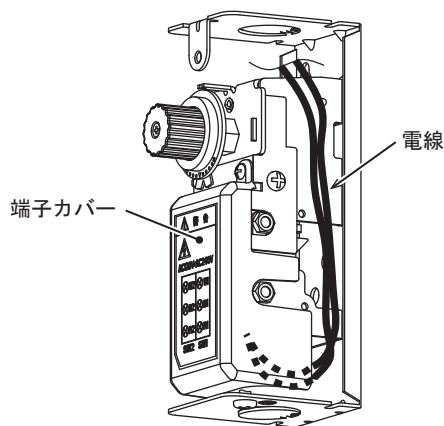


（注記）電線は本体内で「端子カバー開口部位置」を下側から通し、矢印方向に配線する。

図 19

- 上側のロックアウトを使用する場合は、本体側面に電線をはわせて、端子カバー下側からマイクロスイッチへ結線します。

● 本体上側から配線する場合の例

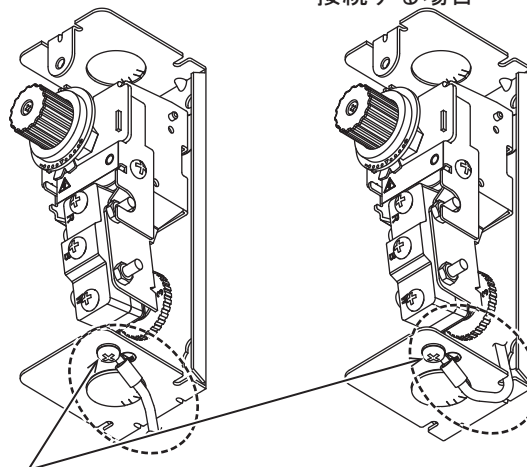


本体側面側面のクリアランスを使用して下側へ電線をはわせ、端子カバー下側を通しマイクロスイッチの端子へ結線する。図の反対側の側面も同様。

図 20

- 保護接地用端子（アース端子）へは、『図 21』のように配線してください。

● 外側で接続する場合 ● 本体内部から線を出して接続する場合



保護接地用端子ねじ

* 端子ねじを1度取り外し、絶縁被覆付丸形圧着端子（M4 サイズ）を用いて接続します。

* 形番 TY6800Z、形番 TTY6800Z 共通

図 21

■ 設 定

- 重要!!**
- 動作すき間の設定は、熱負荷に応じ、ハンチングを起こさないように設定してください。
動作頻度が著しいと故障の原因になります。
 - 動作すき間の設定は、上げ過ぎず適度に動作するように設定してください。
接点の故障の原因になります。

温度設定と動作すき間調節を行います。

●動作すき間（形番TY6800Z）

動作すき間可変ダイヤルを回転させて、動作すき間設定温度目盛をV形切り溝に合わせることにより、動作すき間の設定を行います。

出荷時の動作すき間は、最小（3℃）に設定されています。可変ダイヤルを時計回り方向（CW）に回すと、動作すき間が大きくなります（最大 11℃）。

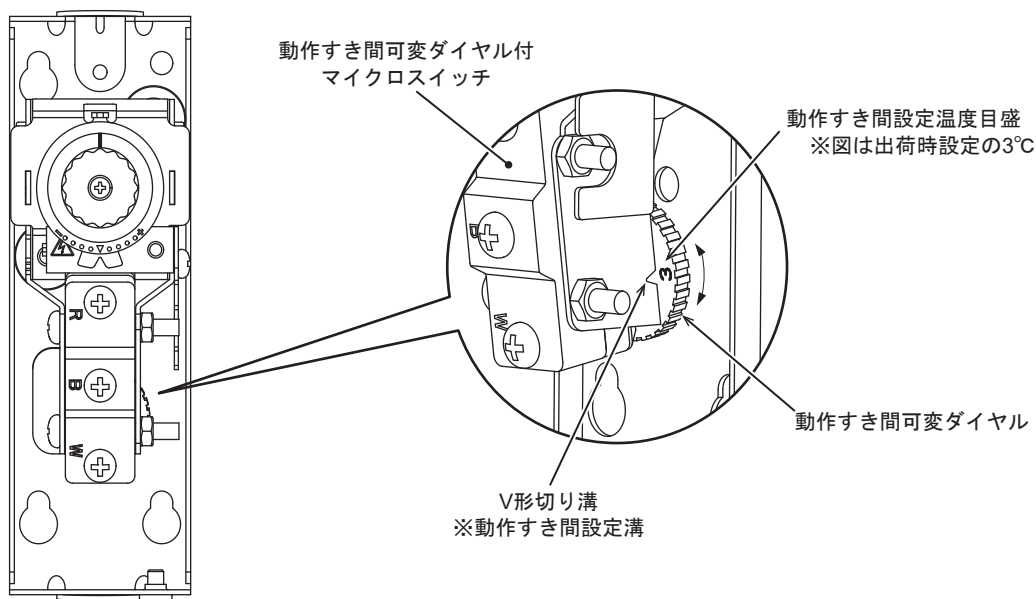


図 22 動作すき間の設定（形番 TY6800Z）

●スイッチ間の段間すき間（形番TTY6800Z）

マイナスドライバの先端を段間調整ねじ組立の切り溝に引っ掛けて回転させることにより、段間すき間の設定を行います。

出荷時のスイッチ間の段間すき間は、最小値（2.5℃）に設定されています。反時計回り方向（CCW、図の下側方向）に回すと、段間すき間は大きくなります。止まったところが最大値（8℃）になります。

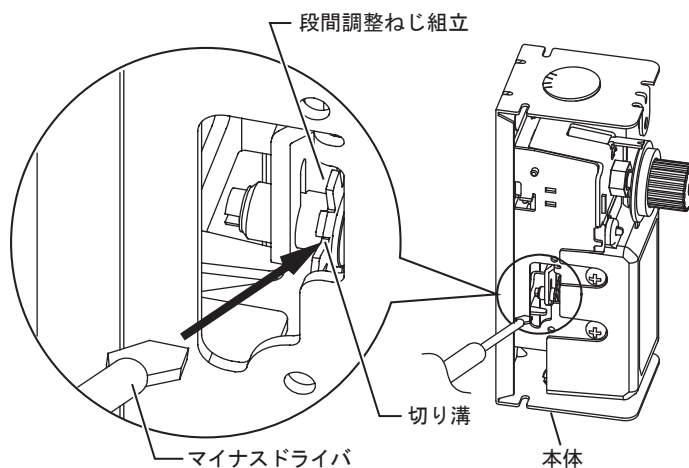


図 23 スイッチ間の段間すき間

■ 動作

希望温度に一度設定し、装置に電源を入れる（設定の項参照）と、自動運転に入ります。

● 形番TY6800Z

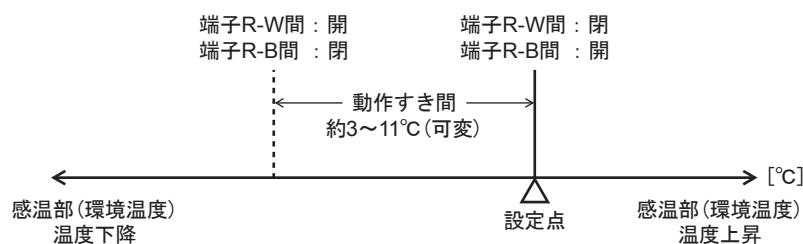


図 24 設定点と動作すき間の関係 (形番 TY6800Z)

《冷却制御》

『図 14 冷却制御結線例』で冷却装置を配線し、被制御体を -5°C に制御する場合（設定： -5°C 、動作すき間： 3°C ）を例に、温度調節器（形番 TY6800Z）の動作を記します。

- ① 被制御体の温度が上がり設定温度（ -5°C ）になると、内部スイッチが動作して端子 R-W 間を閉じ、冷却装置を運転します。
- ② 被制御体の温度が下がり設定温度（ -5°C ）から動作すき間（ 3°C ）を引いた温度（ -8°C ）になると、内部スイッチが動作して端子 R-W 間を開き、冷却装置を停止します。
- ③ ①と②の動作が行われ、あらかじめ設定した温度（ -5°C ）に自動制御します。

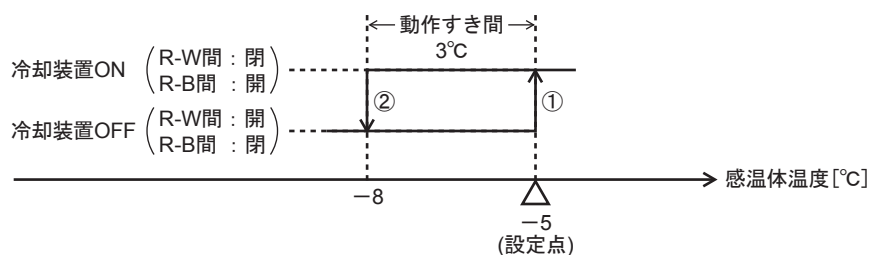


図 25 冷却制御動作例 (形番 TY6800Z)

《加熱制御》

『図 15 加熱制御結線例』で加熱装置を配線し、被制御体を 50°C に制御する場合（設定： 50°C 、動作すき間： 3°C ）を例に、温度調節器（形番 TY6800Z）の動作を記します。

- ① 被制御体の温度が下がり設定温度（ 50°C ）から動作すき間（ 3°C ）を引いた温度（ 47°C ）になると、内部スイッチが動作して端子 R-B 間を閉じ、加熱装置を運転します。
- ② 被制御体の温度が上がり設定温度（ 50°C ）になると、内部スイッチが動作して端子 R-B 間を開き、加熱装置を停止します。
- ③ ①と②の動作が行われ、あらかじめ設定した温度（ 50°C ）に自動制御します。

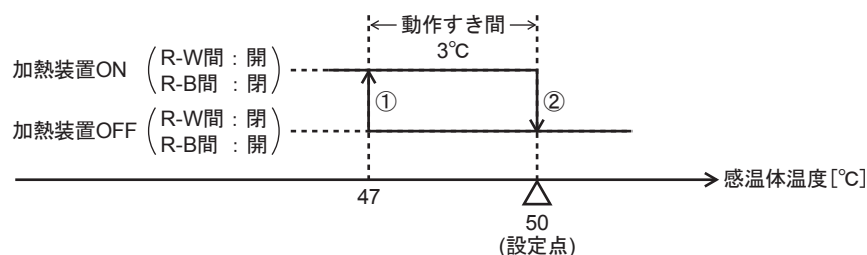


図 26 加熱制御動作例 (形番 TY6800Z)

（注記）冷却装置のコンプレッサ・モータ、電磁弁と加熱装置のヒータ、電磁弁の運転サイクル数が非常に多い場合（運転、停止の時間が非常に短くなる装置）は、形番TY6800Z内部の動作すき間可変ダイヤルを回して、動作すき間をより大きくし調節してください。

● 形番 TTY6800Z

『図 27 設定点と動作すき間の関係 (形番 TTY6800Z)』に示すように、各スイッチの動作すき間は、3°C 固定です。

設定点は、No.1 スイッチ (右側) の上端にあります。スイッチ間の段間すき間は、約 2.5 ~ 8°C の範囲の任意の値に調節できます。

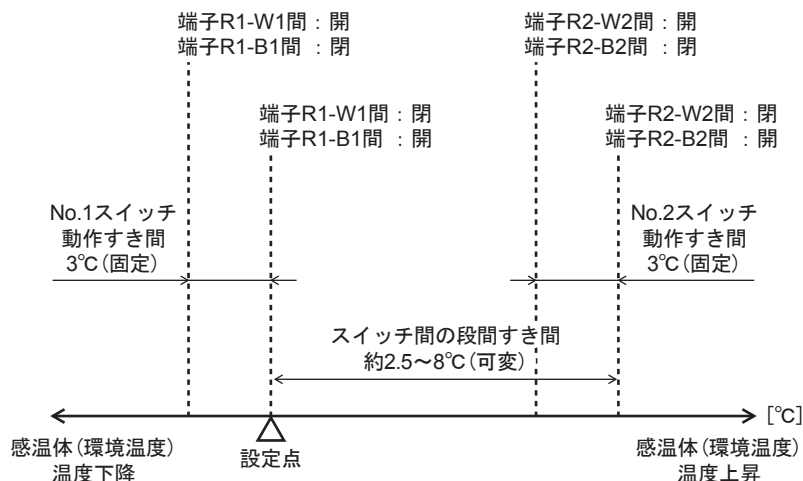


図 27 設定点と動作すき間の関係 (形番 TTY6800Z)

《冷却 2 段制御》

『図 17 冷却 2 段制御結線例』で冷却装置 2 台を配線し、被制御体を -10°C に制御する場合 (設定: -10°C 、動作すき間: 3°C 、段間すき間: 8°C) を例に、温度調節器 (形番 TTY6800Z) の動作を記します。

- ① 被制御体の温度が上がり設定温度 (-10°C) になると、No.1 スイッチが動作して端子 R1-W1 間を閉じ、No.1 冷却装置を運転します。
- ② No.1 冷却装置の運転により被制御体の温度が下がり設定温度 (-10°C) から動作すき間 (3°C) を引いた温度 (-13°C) になると、No.1 スイッチが動作して端子 R1-W1 間が開き、No.1 冷却装置を停止します。
- ③ No.1 冷却装置を運転しても被制御体の温度が上がり続けるときは、設定温度 (-10°C) にスイッチ間の段間すき間 (8°C) を加えた温度 (-2°C) になると、No.2 スイッチが動作して端子 R2-W2 間を閉じ、No.2 冷却装置を運転します。
- ④ No.1 冷却装置と No.2 冷却装置の連続運転により被制御体の温度が下がり、No.2 スイッチの動作した温度から動作すき間 (3°C) を引いた温度 (-5°C) になると、No.2 冷却装置を停止します。No.1 冷却装置のみの運転になります。
- ⑤ さらに被制御体の温度が下がり、設定温度 (-10°C) から動作すき間を引いた温度 (-13°C) になると、No.1 冷却装置を停止します。
- ⑥ 再び温度が上がったときは、①の動作が自動的に行われます。

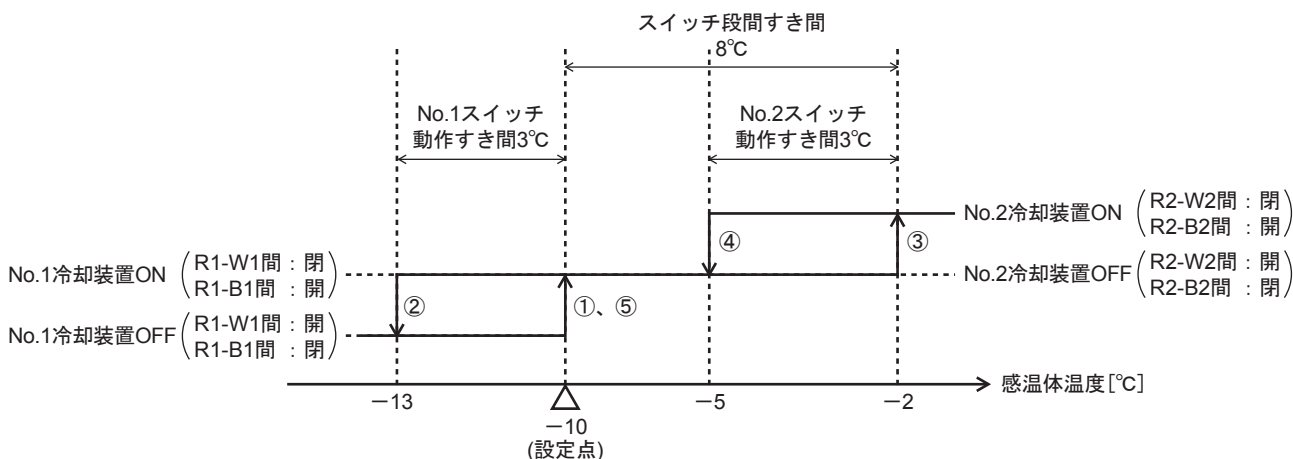
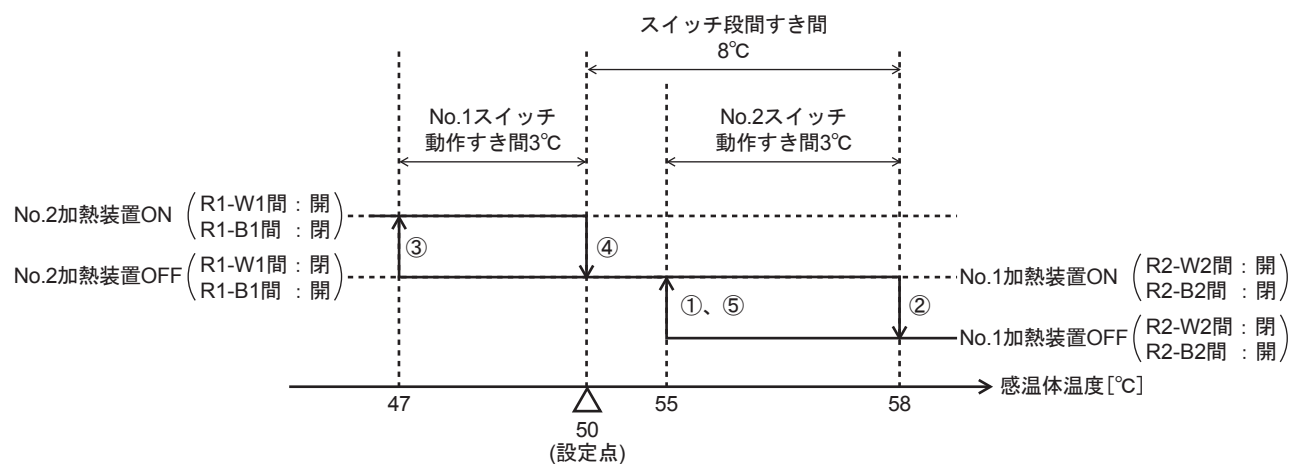


図 28 冷却 2 段制御動作例

《加熱 2 段制御》

『図 18 加熱 2 段制御結線例』で加熱装置 2 台を配線し、被制御体を 50℃に制御する場合（設定：50℃、動作すき間：3℃、断間すき間：8℃）を例に、温度調節器（形番 TTY6800Z）の動作を記します。

- ① 被制御体の温度が下がり設定温度（50℃）にスイッチ間の段間すき間（8℃）を加えた温度（58℃）から動作すき間（3℃）を差し引いた温度（55℃）になると、No.2 スイッチが動作して端子 R2-W2 間を閉じ、No.1 加熱装置を運転します。
- ② No.1 加熱装置の運転により被制御体の温度が上がり設定温度（50℃）に断間すき間（8℃）を加えた温度（58℃）になると、No.2 スイッチが動作して端子 R2-W2 間が開き、No.1 加熱装置を停止します。
- ③ No.1 加熱装置を運転しても被制御体の温度が下がり続けるときは、設定温度（50℃）から動作すき間（3℃）を引いた温度（47℃）になると、No.1 スイッチが動作して端子 R1-W1 間を閉じ、No.2 加熱装置を運転します。
- ④ No.1 加熱装置と No.2 加熱装置の連続運転により被制御体の温度が上がり設定温度（50℃）になると、No.1 スイッチが動作して端子 R1-W1 間を開き、No.2 加熱装置を停止します。
No.1 加熱装置のみの運転になります。
- ⑤ さらに被制御体の温度が上がり、設定温度（50℃）にスイッチ間の段間すき間（8℃）を加えた温度（58℃）になると、No.1 加熱装置を停止します。
- ⑥ 再び温度が下がったときは、①の動作が自動的に行われます。








● 機器の動作点検

- 重要 !!** ● 取り付けた機器が正常に動作することを確認してください。
動作点に誤差がある場合は、設定値を変更することで、誤差を解消してください。
- 検出部の応答遅れにより見かけ上動作すき間が大きくなる場合があります。
 - 必要に応じて設置位置を見直すなど、検出部の応答遅れのないようにしてください。

- (1) 操作用電源を ON にします。
- (2) 設定ノブを設定温度に合わせます。
- (3) 制御対象機器が正常に運転、停止することを確認します。
- (4) 使用時まで操作電源を OFF にします。

■ 保 守

⚠ 警 告	
	保守は、給電元の電源を切った状態で行ってください。 感電や故障のおそれがあります。
	本製品は、D種接地以上に接地してください。 不完全な接地をすると、感電や故障のおそれがあります。
	保守作業後、カバーを元に戻してください。 カバーをしないと、感電のおそれがあります。
	本製品をヒーター等火災の原因につながる機器の制御に使用する場合は、安全対策を行ってください。
	シールコネクタやコンジットなどを使用できない場合は、グロメットを装着してください。 端子への不用意な接触により、感電するおそれがあります。

⚠ 注 意	
	本製品を分解しないでください。 感電したり、故障するおそれがあります。

重要!! ●本製品を分解や改造をしないでください。
故障の原因になります。

保守・点検の周期は、本製品が設置されている周囲条件や使用頻度などを考慮して決めてください。
時々使用するような場合は、使用の都度、直前に動作点検を行うことをお勧めします。
なお、保守・点検は、次の手順で行ってください。

- (1) 感温部や導管（キャピラリ）に付着したちりやほこりを、やわらかい布、または歯ブラシなどで清掃し、感温部が空気や水に十分触れるようにします。
- (2) 感温部や導管（キャピラリ）の変形、潰れ、破損などがいないかを点検します。
- (3) マイクロスイッチの端子とその周辺と設定ノブを手順(1)と同様に清掃します。
- (4) 端子ねじにゆるみがないことを確認します。
- (5) 電線の絶縁性を点検します。

■ 廃 棄

本製品が不用になったときは、産業廃棄物として各地方自治体の条例に従って適切に処理してください。
また、本製品の一部、または全部を再利用しないでください。

本ページは、編集の都合により追加されている白紙ページです。

アズビル株式会社 ビルシステムカンパニー

azbil

[ご注意] この資料の記載内容は、予告なく変更する
場合もありますのでご了承ください。

お問い合わせは、コールセンターへ

0120-261023

<https://www.azbil.com/jp/>

ご用命は、下記または弊社事業所までお願いします。